

ハウスコムの第2四半期（7月～9月）の業績に関する記事が掲載されました。
7月～9月において当社が前年同期比増収増益になったことが記事で取り上げられています。

週刊

全国賃貸住宅新聞

2020年11・9No. 1436

毎週月曜日発行

発行所 ㈱全国賃貸住宅新聞社 亀岡大塚駅前ビル7F

東京都中央区銀座8-12-15

TEL 03(3543)6494(代表)

03(3543)6761(編集部) http://zenchin.com

大阪市北区中之島2-3-18 TEL 06(6220)0075

発行人 河内 鈴

年間購読料17,000円

■四半期業績の比較

(単位=百万円)

	4～6月		7～9月	
	売上高	営業益	売上高	営業益
センチュリー21	869	217	947	266
	(-17.8%)	(-31.5%)	(-8.5%)	(-2.2%)
ハウスコム	2,639	-261	3,033	131
	(-11.3%)	(赤字)	(+1.4%)	(+87.8%)
サンネクスタG	2,273	279	2,000	156
	(+0.6%)	(-25%)	(-4.0%)	(-26.7%)
FJネクスト	12,256	851	19,203	2,193
	(-44.8%)	(-68.3%)	(-6.9%)	(+3.4%)

※ () 内は前年同期比の増減

※ () 内の数字は (当期売上高÷前期売上高-1) ×100した結果を小数第二位以下で切り捨て

上場企業の7～9月期の決算が続々と発表された。減収が相次いだ4～6月期から回復基調にある。外出自粛ムードが和らぎ、次第に客足が戻ってきたようだ。センチュリー21・ジャパン(東京都港区)、ハウスコム(同)、FJネクスト(東京都新宿区)は業績が大幅に改善。一方で、再拡大の兆候が見られるコロナ禍の影響が不透明で予断を許さない状況が続いている。

不動産仲介のフランチャイズを展開し、9月末現在974店の加盟店を抱えるセンチュリー21・ジャパンは、「8月ごろから前年と同等に客足が戻ってきた」(広報担当者)により、売上高、営業利益ともに4～6月期と比べると7～9月期は対前年同期比でのマインス幅が大きく縮まった(上の表)。

特に、営業利益に關しては、営業活動の自粛に伴う旅費交通費や広告宣伝費の減少により、対前年同期比で2・3%減と平年並みの水準まで回復させている。

不動産仲介のフランチャイズを展開し、9月末現在974店の加盟店を抱えるセンチュリー21・ジャパンは、「8月ごろから前年と同等に客足が戻ってきた」(広報担当者)により、売上高、営業利益ともに4～6月期と比べると7～9月期は対前年同期比でのマインス幅が大きく縮まった(上の表)。

7～9月業績

賃貸銘柄、回復基調に転じる
センチュリー、ハウスコムなど



▶センチュリー21・ジャパンの加盟店舗数は974店に上る

特に、投資用新築マンション

次第に、店舗への客足が戻り始めている。5月には前年同期比約30%減だった仲介件数は、7～9月には0・3%減とほぼ平時の水準まで戻ってきている。加えて、広告宣伝費の削減や会議・研修のオンライン化による経費削減が奏功した。資産運用型分譲マンションの開発・販売を行うFJネクストも業績が回復傾向にある。営業活動自粛で4～6月期は売上高が前年同期比44・9%減まで落ち込んだが、7～9月には営業活動を強化したことで6・9%減まで回復した。

好調で、4月～9月の累計でも販売高17・4%増の実績をあげている。また、管理棟数の積み上げや建設事業が堅調に推移したこともあって、営業利益は前年同期比で3・4%増となった。



▲ハウスコムは全国に直営186拠点を展開

移住・整備コストの増加、退任取締役へ特別功労金を贈呈によって、26・6%減を計上している。各社の下半期の業績予想については、新型コロナウイルスの国内での感染拡大に対する警戒感から不動産の仲介や売買を主力とする会社を中心に慎重な姿勢を見せている。4～6月では営業活動の停滞により売り上げを落とした会社が多かったことから、非対面接客への対応など、ユーザーが外出を自粛した状況でも営業活動が続けられる体制を整備できるかが成否の力を握りそうだ。



▲FJネクストの主力は投資用マンションの販売

センチュリー21・ジャパンは、期末までに緩やかに回復すると仮定したうえで、売上高を前期比8・4%減、営業利益28・2%減と予想。感染対策の徹底、オンライン接客や管理事業、中古売買の強化、業務管理システム導入などを加盟店に促し、収益確保を目指す。ハウスコムは、7月30日に発表した連結業績予想からプラスに推移しているか、繁忙期の1～3月におけるコロナ禍の影響が不透明だとして、営業収益2・1%増、営業利益14・2%のまま据え置いた。今後は、対面、非対面を問わず、さまざまな形で接客に対応できる環境を整え、ニーズを取り込んでいくとした。

センチュリー21・ジャパンは、期末までに緩やかに回復すると仮定したうえで、売上高を前期比8・4%減、営業利益28・2%減と予想。感染対策の徹底、オンライン接客や管理事業、中古売買の強化、業務管理システム導入などを加盟店に促し、収益確保を目指す。ハウスコムは、7月30日に発表した連結業績予想からプラスに推移しているか、繁忙期の1～3月におけるコロナ禍の影響が不透明だとして、営業収益2・1%増、営業利益14・2%のまま据え置いた。今後は、対面、非対面を問わず、さまざまな形で接客に対応できる環境を整え、ニーズを取り込んでいくとした。